

スギラン ヒカゲノカズラ科
Huperzia cryptomerina (Maxlm.) Dixit

鳥取県：絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)
環境省：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)



智頭町 2020.6.1 / 撮影：前田雄一

■選定理由：着生に適した古木がナラ枯れや台風被害などによって減少傾向にある。さらに倒伏した古木からの採取や着生環境の激変により個体数の減少が危惧される。

■特徴：深山のブナ、ミズナラなどの古木に着生する常緑性のシダ植物。茎は叢生し、通常数回又状に分岐する。直立か斜状、まれに下垂し、長さ10-30 cm。葉は深緑色で革質、線形または線状披針形。上部の葉ほど次第に短く細くなる。孢子葉は通常小枝につく。

■分布 県内：若桜町、智頭町、鳥取市佐治町、琴浦町、大山町。県外：北海道、本州、四国、九州に分布するがまれ。

■保護上の留意点：ブナ帯の自然林の保護と採取防止。

■特記事項：国立・国定公園採取禁止指定種、鳥取県条例採取禁止指定種。

執筆：前田雄一

ヤシャゼンマイ ゼンマイ科
Osmunda lancea Thunb.

鳥取県：絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)
環境省：—



日南町 2021.8.5 / 撮影：矢田貝繁明

■選定理由：ダム建設と園芸用採取のため減少し、初版では野生絶滅とされていたが、その後生育が再確認された。県内の生育地は日野川流域の一部に限られ生育個体数もきわめて少ないため、絶滅のおそれ大きい。

■特徴：山地溪流沿いの岩上の隙間に生育する夏緑性シダ植物。ゼンマイに類似するが、小羽片が狭楕円形、先端と基部とも鋭突形、やや硬厚質である。生育地は洪水時には水没する溪岸の岩上で、他の植物の侵入のおそれは少ない。採取防止を図れば現状維持は可能。

■分布 県内：日野川流域（日南町、日野町、江府町）。県外：北海道南部、本州、四国、九州。

■保護上の留意点：園芸用採取防止、ダム建設や河川工事など生育環境の破壊行為の防止。

■特記事項：初版(2002)野生絶滅、国立・国定公園採取禁止指定種、鳥取県条例採取禁止指定種。

執筆：矢田貝繁明

タキミシダ イノモトソウ科
Antrophyum obovatum Baker

鳥取県：絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)
環境省：絶滅危惧ⅠB類 (EN)



鳥取県内 2019.4.3 / 撮影：矢田貝繁明

■選定理由：全国的にも希少な種で園芸用採取圧が強い。県内では種の存続に支障をきたすほど個体数が著しく少ない。生育環境の変化による絶滅の危険性も大きい。

■特徴：やや陰湿な溪流沿いの岩場に着生する小型の常緑性シダ植物。根茎は短く、葉を叢生する。葉身は厚質で、長さ10 cm程度の倒卵状長楕円形。葉脈は網目状で、中肋が不明瞭。基部はくさび形で葉柄に流れる。現在生育が確認されている生育地はきわめて少なく、生育個体数もわずかである。

■分布 県内：非公開。県外：本州（関東以西）、四国、九州。

■保護上の留意点：生育地の公表禁止、厳重な採取防止、生育環境の保全。

■特記事項：国立・国定公園採取禁止指定種、鳥取県条例採取禁止指定種。

執筆：矢田貝繁明

オオエゾデンダ ウラボシ科
Polypodium vulgare L.

鳥取県：絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)
環境省：絶滅危惧ⅠB類 (EN)



湯梨浜町 2021.9.11 / 撮影：磯江茂秋

■選定理由：県内には他に自生地がなく、全国的にも隠岐と本州北部、北海道に自生するのみ。

■特徴：山地の林内樹幹や岩上に生える常緑のシダ植物。県内では日当たりのよい旧海食崖の岩上に生育。葉はアオネカズラやオシャクジデンダに似て卵状長楕円形で羽状に深く切れ込む。根茎は短く横にはう。自生地ではノイバラやキツタに覆われがちで植生管理が必要である。自生環境から乾燥にはある程度耐性があるのではないかと考えられる。

■分布 県内：湯梨浜町。県外：北海道、本州北部、島根県隠岐。

■保護上の留意点：採取防止、被陰している低木類の除去など自生地の継続的な植生管理。

■特記事項：国立・国定公園採取禁止指定種、鳥取県条例採取禁止指定種。

■文献：108, 109.

執筆：磯江茂秋

マイヅルテンナンショウ サトイモ科
Arisaema heterophyllum Blume

鳥取県：絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)
環境省：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)



鳥取県内 2019.6.24 / 撮影：松本哲也

- 選定理由：県内での現在の確認地は1カ所のみ。以前に船上山で撮影された写真があるが現状不明。種名のように独特な形をしているので見つかるかと採取される。シカの食害があり保護の必要がある。
- 特徴：落葉広葉樹林内の明るいところに生える多年生草本。高さ1m程度になる。花期は6月。葉身は鳥足状に分裂し小葉は20枚程度、線形から長楕円形で先は急にとがり、頂小葉は小さい。花序は葉が展開した後、偽茎部の開口部から出る。仏炎苞は緑色、筒部は細長く、舷部は卵形。花序付属体は無柄で鞭状に細まり、苞外に出て直立する。花序付属体と葉身がツルが舞うように見えることから種名がついたという。
- 分布 県内：非公開。県外：本州、四国、九州。朝鮮半島、台湾、中国。
- 保護上の留意点：生育地周辺の自然林の保護。採取禁止。
- 特記事項：鳥取県条例採取禁止指定種。
- 文献：54。

執筆：坂田成孝

ナギヒロハテンナンショウ サトイモ科
Arisaema nagense T.Kobay., K.Sasamura et J.Murata

鳥取県：絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)
環境省：絶滅危惧Ⅰ類 (CR)



智頭町 2015.5.22 / 撮影：坂田成孝

- 選定理由：県内の自生地は2カ所のみで個体数は僅少。環境省の国内希少野生動植物種にも指定されており、自生地の積極的保護とシカの食害保護が必要。
- 特徴：ブナ帯の林縁に生える多年生草本。高さ30cmほどになる。葉と花序は6月。葉は1枚、葉柄部は偽茎部より長くなり小葉は6枚前後、線形-狭披針形で全縁。花序柄は葉柄部より短い。仏炎苞は葉身より早く開き、外面は緑色を帯びた紫褐色、筒部に著しく隆起する白色の縦条があり、筒部の口辺は狭く開出し、舷部の内面は紫褐色、筒部よりも長い。花序付属体は有柄で棒状、紫褐色。2021年に智頭町自生地の森林施業にあたり現地協議が行われ、関係者間で保全措置をとることが決定された。
- 分布 県内：智頭町。県外：兵庫県、鳥取県、岡山県（いずれも一部）。
- 保護上の留意点：自生地周辺の自然林の保護。ニホンジカの適正管理。採取禁止の徹底。
- 特記事項：環境省国内希少野生動植物種指定種、鳥取県条例採取禁止指定種。

執筆：坂田成孝

ツバメオモト ユリ科
Clintonia udensis Trautv. et C.A.Mey.

鳥取県：絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)
環境省：—



氷ノ山 2017.7.30 / 撮影：坂田成孝

- 選定理由：県内の自生地は1カ所のみ。シカ食害が顕著で下層植生が衰退、この10年は本種の確認例は1件のみで絶滅が心配される。分布西限。
- 特徴：通常は亜高山帯針葉樹林下に生育する多年生草本。県内では氷ノ山のみ分布。遺存植物。葉は根出葉のみで倒卵状長楕円形、やや肉厚、長さ15-30cm。高さ30cmほどの花茎の先端に単総状花序をつくり白色の花をつける。花茎は花後2倍長に伸長。果実は濃藍色、球形、径約1cm。和名は果実の色をツバメに見立てたもの。
- 分布 県内：氷ノ山。県外：北海道、本州近畿以北。
- 保護上の留意点：厳重な採取防止。氷ノ山一帯の自然林の保護。ニホンジカの適正管理。
- 特記事項：国立・国定公園採取禁止指定種、鳥取県条例採取禁止指定種。

執筆：山本賢二

タケシマラン ユリ科
Streptopus streptopoides (Ledeb.) Frye et Rigg subsp. *japonicus* (Maxim.) Utech et Kawano

鳥取県：絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)
環境省：—



扇ノ山 2005.5.29 / 撮影：坂田成孝

- 選定理由：中部以北の亜高山帯に生育し、県内では扇ノ山上部に隔離分布する。近年シカ食害による衰退が著しく絶滅寸前。小型柵により個体の保護をはかっている。
- 特徴：扇ノ山頂上部の山道でチシマザサに寄りそうように生育している多年生草本。茎は高さ20-30cm、途中で二又に分枝するものが多い。無毛で平滑。葉は互生し無柄、長さ3-10cm。基部は茎を抱かない。花期は5-6月、上部の葉腋から出る長い花柄の先に一花を垂れ下げる。液果は径7mmで赤く熟す。2021年は食害のため、開花個体はごく少数であった。
- 分布 県内：扇ノ山。県外：北海道、本州中部以北、四国（剣山）。
- 保護上の留意点：扇ノ山山頂部の自然保護、登山道整備時に注意。ニホンジカの適正管理。
- 特記事項：保護管理活動を実施中。鳥取県条例採取禁止指定種。
- 文献：79。

執筆：山本晴恵

ヒナラン ラン科
Amitostigma gracile (Blume) Schltr.

鳥取県：絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)
環境省：絶滅危惧ⅠB類 (EN)



琴浦町 2021.6.20 / 撮影：禎田達也

- 選定理由：過去に再生能力をはるかに上回る採取圧にさらされ激減した。種の存続が難しい危機的水準まで減少しており、絶滅が心配される。
- 特徴：山地のやや乾いた崖壁の岩棚などに生育する小型のラン科草本。葉は長さ5-7 cm、幅1.5 cmの狭長楕円形で基部に1枚つく。花期は6月下旬-7月上旬。淡紅紫色の小花5-15個を総状につける。現在は容易に近づけない岩壁にのみ残る。
- 分布 県内：若桜町、鳥取市用瀬町、琴浦町、日野町。県外：本州（関東以西）、四国、九州。
- 保護上の留意点：大規模な岩壁に生育するため環境変化は少ないが、厳重な採取防止が重要。
- 特記事項：国立・国定公園採取禁止指定種、鳥取県条例採取禁止指定種。

執筆：矢田貝繁明

キエビネ ラン科
Calanthe striata R.Br.

鳥取県：絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)
環境省：絶滅危惧ⅠB類 (EN)



鳥取県内 2018.5.17 / 撮影：矢田貝繁明

- 選定理由：過去に採取圧が強く、生育地が激減し生育個体数も激減している。エビネ類の中でも花が目立ち生育が発見されやすいため、現在でも採取圧による減少が再生産を上回っている。
- 特徴：暖温帯林の林床に生育する常緑のラン科の多年生草本。エビネやナツエビネに比べ植物体は大型。花期は5月中-下旬。鮮黄色の花を円錐状に20個前後つける。県内で現在確認されている生育地の多くはスギ造林地内であり、森林作業で見つかれば採られる可能性がある。森林作業への啓蒙が必要。
- 分布 県内：非公開。県外：本州（福井県以西）、四国、九州。
- 保護上の留意点：厳重な採取防止、生育地の非公開が必要。
- 特記事項：国立・国定公園採取禁止指定種、鳥取県条例採取禁止指定種。

執筆：矢田貝繁明

サルメンエビネ ラン科
Calanthe tricarinata Lindl.

鳥取県：絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)
環境省：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)



鳥取県内 2021.4.27 / 撮影：矢田貝繁明

- 選定理由：以前から県内の生育情報はあったものの確認に至っていなかった種で、2012年5月に初確認された。県内の生育地、生育個体数ともにきわめて少ない。エビネ類の中でも大型で目立つため採取圧が強く、過去の山野草ブーム時にほとんど採り尽くされた。
- 特徴：ほぼ日本全土に分布し、ブナ林など深山の林床に生育するラン科の大型多年生草本。葉は2-4枚つけ、倒披針形で長さ30-50 cmと大きい。まれに70 cm近いものもある。5月-6月上旬に高さ30-50 cmの花茎を伸ばし5-15個の花を疎らにつける。黄緑色の幅の広い3枚の萼片と2枚の側花弁がある。赤褐色の唇弁は3裂し垂れる。ニホンジカの食害にともない林床から植物が消えた場所では小型の防鹿柵で保護している。
- 分布 県内：非公開。県外：北海道、本州、四国、九州。
- 保護上の留意点：厳重な採取防止。
- 特記事項：国立・国定公園採取禁止指定種、鳥取県条例採取禁止指定種。
- 文献：66。

執筆：矢田貝繁明

ユウシュンラン ラン科
Cephalanthera subaphylla (Thumb.) Blume var. *subaphylla* (Miyabe et Kudō) Ohwi

鳥取県：絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)
環境省：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)



大山町 2020.5.7 / 撮影：矢田貝繁明

- 選定理由：県内の生育地は数カ所で個体数も少ない。林床の変化に弱く、落葉の流出やイノシシによる掘り起こしかく乱で消滅した場所もある。
- 特徴：環境変化の少ない樹林下や竹林内に生育するラン科の多年生草本。茎は高さ3-10 cm程度で、長さ3 cmほどの葉が2-3枚つく。花は5月上-中旬に咲き、色は白色。生育地は常緑広葉樹林、落葉広葉樹林、竹林などの林下で、下層植生の少ない安定した場所。花期以外は目立たないため確認は困難である。花の時期には観光客が多い場所では注意喚起が必要。
- 分布 県内：鳥取市鹿野町、大山町、南部町、江府町。県外：北海道、本州、四国、九州。
- 保護上の留意点：採取防止、生育地の急激な環境変化防止。
- 特記事項：国立・国定公園採取禁止指定種、鳥取県条例採取禁止指定種。

執筆：矢田貝繁明

クマガイソウ ラン科
Cypripedium japonicum Thunb. var. *japonicum*

鳥取県：絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)
環境省：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)



鳥取県内 2019.5.21 / 撮影：永松 大

- 選定理由：県内には数カ所の自生地があるが、この10年間だけでも盗掘のために2カ所で姿を消した。非常に採取圧が高く絶滅寸前。
- 特徴：県内ではスギ林下や竹林に生育するラン科の多年生草本。地下茎が横走り集団をつくって広がるため、鉢植え等は困難。高さは30cmほど、大型で扇型の葉を2枚つける。花期は4-5月、大型の袋状唇弁が横向きにぶら下がるように咲く。自生地では多数の地上茎が花を咲かせるが、結実率は数%しかない。鳥取県条例による採取禁止指定種であるが、2010年代に少なくとも県内の2カ所で盗掘され、壊滅状態になった。スギ林下に生えるため、本種は古くから人の関わりがあると考えられるが、このままでは県内から姿を消すのも遠くないと思われる。
- 分布 県内：非公開。県外：北海道、本州、四国、九州。
- 保護上の留意点：厳重な採取防止。
- 特記事項：国立・国定公園採取禁止指定種、鳥取県条例採取禁止指定種。
- 文献：62。

執筆：永松 大

ツリシュスラン ラン科
Goodyera pendula Maxim.

鳥取県：絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)
環境省：—



鳥取県内 2021.7.24 / 撮影：岡田祐哉

- 選定理由：県内での自生確認は極めて少なく個体数はわずか。今回みつかったのは倒木に着生した数個体のみ。
- 特徴：冷温帯の渓谷近くにあるトチノキなどのコケが密生した幹に着生するラン科の多年生草本。花が見つからない個体はロゼット状で極めて発見しにくい。花期は7-8月。長い花茎を垂らし花序は吊られたように立ち上がる。小さな花を房状に30-50個ほどつけ花序全体に細かい毛が生える。シュスラン属で着生するのは本種のみ。開花した株はその後、枯れる。県内で以前に発見された個体も倒木に着生した個体で、21年ぶりに確認された。
- 分布 県内：非公開。県外：北海道、本州、四国、台湾。
- 保護上の留意点：自然植生の保護、急激な環境変化の防止。
- 特記事項：鳥取県条例採取禁止指定種。

執筆：岡田祐哉

ノビネチドリ ラン科
Neolindleya camtschatica (Cham.) Nevski

鳥取県：絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)
環境省：—



大山町 2015.6.10 / 撮影：矢田貝繁明

- 選定理由：県内の生育地は大山に限られ、種の存続に支障をきたすほど個体数が著しく減少している。盗採や生育地の崩落、周辺植生の変化など生育条件が悪化している。
- 特徴：ブナ帯-亜高山帯域に生育するラン科の多年生草本。茎は直立し高さ30-60cmになる。葉は縁が波状で5-10枚が互生し、上のものほど細くなる。花期は6月で穂状花序に淡紅色の花が多数つく。大山では標高1400m以上の草地の一部にわずかに生育している。県内東部でも高標高域の林道法面で確認例があったが、10年以上見つからない。
- 分布 県内：大山町。県外：北海道、本州、四国、九州。
- 保護上の留意点：厳重な採取防止、草原の維持管理。
- 特記事項：国立・国定公園採取禁止指定種、鳥取県条例採取禁止指定種。

執筆：矢田貝繁明

サギソウ ラン科
Pectellis radiata (Thunb.) Raf.

鳥取県：絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)
環境省：準絶滅危惧 (NT)



岩美町 2021.8.5 / 撮影：永松 大

- 選定理由：県内には自生に適した湿地が少ないうえ、自生地の環境条件も悪化している。園芸目的の採取圧もあり、絶滅のおそれが高い。
- 特徴：低山地の日当たりのよい湿地に生育するラン科の多年生草本。地下に走地枝を伸ばして球茎をつくる。茎は直立し15-40cm程度になる。葉は線形で数枚が根出し、上部に鱗片葉がつく。花期は7-8月。白い幅の広い唇弁をつけ、縁が糸状に裂けて独特の形となり距は3cmにも達する。園芸的な人気が高い。県内西部でも改めて生育が確認されたが個体数は少なく、採取圧も高いのでいつ絶滅してもおかしくない。サギソウは栽培品も多い。
- 分布 県内：岩美町、鳥取市国府町、米子市、日南町。県外：本州、四国、九州。
- 保護上の留意点：湿原環境の維持と自生地の植生管理。厳重な採取防止。
- 特記事項：国立・国定公園採取禁止指定種、鳥取県条例採取禁止指定種。

執筆：永松 大

ウチョウラン ラン科
Ponerorchis graminifolia Rchb.f. var. *graminifolia*

鳥取県：絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)
環境省：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)



鳥取県内 2021.7.27 / 撮影：矢田貝繁明

- 選定理由：県内の生育地は極めて限定されている。1980年代には専門業者や愛好家が本種を乱獲し激減したと言われ、今もザイルの痕跡が残っている。今日、種の存続が難しいほど個体数が少ないままで、絶滅のおそれが高い。
- 特徴：明るい崖の岩隙に生育するラン科の多年生草本。茎は斜上し高さ10 cm 前後で、広線形の葉を数枚つける。6月下ー7月上旬に紅紫色の花を数個咲かせる。過去に採取が行われた痕跡がある自生地では、最盛期から40年以上が経過した現在でも回復がみられず、乱獲の影響は根深い。
- 分布 県内：非公開。県外：本州、四国、九州。
- 保護上の留意点：近年は生育環境の大きな変化は見られないが、嚴重な採取防止が必要。
- 特記事項：鳥取県条例採取禁止指定種。

執筆：矢田貝繁明

カヤラン ラン科
Thrixspermum japonicum (Miq.) Rchb.f.

鳥取県：絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)
環境省：—



鳥取市 2020.5.8 / 撮影：長棟光祐

- 選定理由：県内では局所的に生育するのみ。確認地でも着生している樹木の衰退によりしばしば個体数は減少する。採取圧も高い。2020年にも強風で1個体が落下し消失した。
- 特徴：空中湿度の高い渓流沿いの樹木に着生する常緑性ラン科植物。比較的高所に生育するため、花期以外の発見は難しい。葉は暗緑色で互生し、水平状に開平する。和名はカヤの葉に似ること由来する。花期は4月下旬ー5月上旬。花は淡黄色で目立ち、果実は円柱状である。着生枝に多く根を伸ばし、下垂するように生育する個体も確認されている。人為的な採取以外にも強風・積雪等に伴う落下や着生した樹木の衰退による個体数減少が危惧される。撮影地では着生枝の衰退が目立ち、今後には注意が必要。
- 分布 県内：鳥取市（旧市、佐治町）、日野町。県外：本州（岩手県以南）、四国、九州。済州島、中国南部。
- 保護上の留意点：着生樹木、および周辺環境の保護。嚴重な採取防止。
- 特記事項：国立・国定公園採取禁止指定種、鳥取県条例採取禁止指定種。
- 文献：106, 108.

執筆：長棟光祐

ギョウジャニンニク ヒガンバナ科
Allium victorialis L. subsp. *platyphyllum* Hultén

鳥取県：絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)
環境省：—



若桜町 2008年頃 / 撮影：山本賢二

- 選定理由：県内での自生地は1カ所のみ。そこでもシカの食害により急崖にわずかに残るのみで、以前の10分の1の規模に減少した。
- 特徴：深山の林内に生育する夏緑性多年生草本。県内では渓谷沿いの岩角地の土壌堆積地に生育する。遺存植物。鱗茎は細長く古い葉鞘がシュロ状になって残る。ネギ臭が強い。葉は茎の下部に2-3枚つけ、長楕円形、大形で長さ20-30 cm、幅3-10 cm。鈍頭で基部はくさび形、葉鞘は長く茎を抱く。花期は6-7月、茎頂に散形花序をつけ、白色の花が多数咲く。花茎の長さは40-70 cm。和名は行者が食用にしていたことに由来。
- 分布 県内：若桜町。県外：北海道、本州近畿以北。
- 保護上の留意点：嚴重な採取防止、ニホンジカの適正管理。
- 特記事項：鳥取県条例採取禁止指定種。

執筆：山本賢二

ミズアオイ ミズアオイ科
Monochoria korsakowii Regel et Maack

鳥取県：絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)
環境省：準絶滅危惧 (NT)



岩美町 2017.8.29 / 撮影：坂田成孝

- 選定理由：以前は倉吉市と岩美町の県内2カ所で確認されていたが、倉吉市では2005年以降は見つかっていない。岩美町では2019年には数株が残っていたが、2021年は小型化した1-2株が確認されるのみで絶滅寸前。
- 特徴：平野部の用水路やため池、河川の停留水域に生育する1年生抽水草本。高さ20-40 cm。根生葉は長柄があり、長さ、幅ともに4-15 cm、厚くてつやがある。
- 分布 県内：岩美町。県外：北海道、本州、四国、九州。
- 保護上の留意点：水辺環境の保全。河川改修に注意。岩美町の自生地では雑草の除去を含む自生環境の改善が急務。
- 特記事項：鳥取県条例採取禁止指定種。
- 文献：108.

執筆：井上喜美子

ダイセンアシボスゲ カヤツリゲサ科
Carex scita Maxlm. var. *parvisquama* T.Koyama

鳥取県：絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)
環境省：絶滅危惧ⅠA類 (CR)



大山 2018.6.10 / 撮影：矢田貝繁明

■選定理由：1935年に大山で採集され1955年に新変種として記載されたが、その後は目撃情報以外の確実な標本や写真がなく絶滅したものとされていた。2011年に再発見された。大山の特産で生育個体数は極めて少ない。生育地は崩落地で生育条件はいちじるしく悪化している。

■特徴：大山山頂付近の草原やガレ場に生育する草丈20-30cmの多年生草本。葉は幅3-4.5mm、裏面に乳頭状突起を密布する。基部の鞘は濃赤紫色で繊維状に細裂する。頂小穂は雄性で長楕円形、側小穂は雌性で楕円形、柄があり下垂する。果胞は雌鱗片より長く長さ4-4.5mm、幅広く楕円形で5-6本の細脈があり嘴はない。アシボスゲが南方に隔離分布したものと考えられている。

■分布 県内：大山。県外：なし。

■保護上の留意点：生育地の環境保全対策は困難、厳重な採取防止。

■特記事項：国立・国定公園採取禁止指定種、鳥取県条例採取禁止指定種。

■文献：12, 29, 66.

執筆：矢田貝繁明

ミチノクフクジュソウ キンボウゲ科
Adonis multiflora Nishikawa et Koji Ito

鳥取県：絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)
環境省：準絶滅危惧 (NT)



日野町 2021.3.27 / 撮影：矢田貝繁明

■選定理由：1980年代に県内で群生が知られていた自生地は、採取と生育環境の悪化により現在は数本が生育するのみ。このままでは数年で絶滅する。2018年に新たな生育地が発見されたが、絶滅の危険性はほとんど下っていない。

■特徴：日当たりの良い広葉樹林下や原野に生育する多年生草本。茎の断面は中空、葉は互生。県内では、休耕田の畦や原野に生育している。雪解け後の3月上旬-下旬、花弁が12-15枚の光沢のある黄色の花を咲かせる。萼片の長さは花弁の1/2から2/3でほとんどが5枚。開花時の高さは5-7cmだが、花が終われば急激に茎が伸び、夏季には地上部は消える。

■分布 県内：伯耆町、江府町、日野町。県外：本州（中部以北）、九州。

■保護上の留意点：採取のため絶滅寸前、早急に実効性のある採取防止策が必須。自生環境は草刈りでかろうじて維持されており、草地、畦畔の維持・管理が必要。

■特記事項：鳥取県条例採取禁止指定種。

執筆：矢田貝繁明

ベニバナヤマシャクヤク ボタン科
Paeonia obovata Maxlm.

鳥取県：絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)
環境省：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)



鳥取県内 2015.6.9 / 撮影：矢田貝繁明

■選定理由：県内の生育地は1カ所のみ。生育個体数は少なく、種の存続が危機的状況にある。初版時には野生絶滅とされたが2010年に自生が確認された。

■特徴：山地の明るい林内に生育するやや大型の多年生草本。ヤマシャクヤクに類似するが、花弁が淡紅色で柱頭は伸長し旋曲する点で異なる。花柱の数と葉の下面の軟毛の有無は個体によって異なる。高さは60-70cm。花期は6月中旬。園芸目的の採取圧が非常に強く、現状では生育地が知られると採取されるおそれがいへん強い。

■分布 県内：非公開。県外：北海道、本州、四国、九州。北東アジア。

■保護上の留意点：森林伐採など生育地の急激な環境変化防止、園芸用採取の厳重な防止。

■特記事項：初版(2002)では野生絶滅評価。国立・国定公園採取禁止指定種、鳥取県条例採取禁止指定種。

執筆：矢田貝繁明

コキンバイ バラ科
Geum ternatum (Stephan) Smedmark

鳥取県：絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)
環境省：—



氷ノ山 2013.5 / 撮影：山本賢二

■選定理由：氷ノ山の登山道沿いにわずかに分布し植生管理や踏圧防止の保護活動が行われているが、近年減少が目立つようになった。シカの足跡が目立ち、コケの繁茂やチシマザサの密度低下がみられる。

■特徴：ブナ帯域の日当たりのよい林縁などのやや乾いた場所に生育する多年生草本。遺存植物。地下茎は長く這う。茎葉ともに軟毛が密生。根出葉は長柄がある。葉は3出複葉で頂小葉は大きく倒卵形、3浅裂、鈍鋸歯縁。側小葉はゆがんだ卵形で2深裂。茎葉は小形3裂被針形。花期は4-5月。葉から突出し径約2cmで黄色の花を付ける。漢名は小金梅。

■分布 県内：氷ノ山（分布西限）。県外：北海道、本州の亜高山帯。

■保護上の留意点：採取防止。登山道整備による踏みつけ防止。チシマザサの管理。

■特記事項：鳥取県条例採取禁止指定種。

執筆：山本賢二

オオシラヒゲソウ ニシキギ科
Parnassia foliosa Hook.f. et Thomson var. *japonica* (Nakai) Ohwi

鳥取県：絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)
環境省：—



八頭町 2017.9.8 / 撮影：坂田成孝

- 選定理由：自生地が県内東部の山地渓流の不安定地に限られひんぱんに流出するなどして個体数が少ない。採取圧もある。
- 特徴：山地渓流沿いの水が滴る岩場、滝周辺などの常時水の供給がある斜面に生育する多年生草本。葉は深心形で茎を抱き円頭、長さ幅ともに4-6 cm、莖葉3-4枚。根出葉は長柄がある。花期8-9月。白色で径3 cm。花弁は卵形で辺縁が毛状となる。水ノ山の渓谷にあった群落は大部分が流出のち回復せず、わずかに残るのみ。
- 分布 県内：岩美町、鳥取市、八頭町、若桜町、三朝町。県外：本州日本海側。
- 保護上の留意点：山地渓谷の岩場および周辺自然植生の保護、採取防止。
- 特記事項：国立・国定公園採取禁止指定種、鳥取県条例採取禁止指定種。
- 文献：108。

執筆：井上喜美子

イソスミレ スミレ科
Viola grayi Franch. et Sav.

鳥取県：絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)
環境省：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)



鳥取砂丘 2020.4.27 / 撮影：上田康恵

- 選定理由：鳥取県湯梨浜町原が分布西限。鳥取砂丘では急速に砂が厚く積もり絶滅寸前。湯梨浜では近年個体数が少し増えたが、防風林内の砂地草原化に注意が必要。
- 特徴：砂浜に続く砂丘の上にある、海岸性低木や防風林の中に生育する小型の多年草。地下茎は匍匐し、根は深い。葉は肉厚で光沢がある。花期4月下旬-5月。距は白、淡紫。花弁が幅広く、径2-2.5 cmと大型でふくよか。タツツボスミレの仲間。
- 分布 県内：鳥取砂丘、湯梨浜町。県外：北海道-鳥取県中部の日本海側、北海道-青森の太平洋側。
- 保護上の留意点：海岸砂丘の保護。
- 特記事項：国立・国定公園採取禁止指定種、鳥取県条例採取禁止指定種。
- 文献：108。

執筆：井上喜美子

ゴゼンタチバナ ミスギ科
Cornus canadensis L.

鳥取県：絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)
環境省：—



三朝町 2021.6.21 / 撮影：時岡昭人

- 選定理由：県内での生育は1カ所のみ。近年、開花株数にやや改善傾向がみられるが、着果株数はきわめて少ない。
- 特徴：亜高山帯の樹林下に生育する小型の多年草。根茎が地中をはい、地上に5-15 cmの茎を直立する。葉は4枚あるいは6枚で、花の咲く茎には茎頂に1対と葉腋に2対の計6枚がつき輪生状に見える。花期は6月。白色の総苞片4枚に10-20個の頭状花序をつける。果実は球形で秋に赤熟する。県内唯一の生育地はブナ帯上部の平坦地でチシマザサの繁茂が著しい。その圧迫を受けるとともに近年はシカの痕跡も目立つ。
- 分布 県内：三朝町。県外：北海道、本州（中部以北）、愛媛県。
- 保護上の留意点：採取防止、チシマザサの管理、ブナ自然林の保全。
- 特記事項：国立・国定公園採取禁止指定種、鳥取県条例採取禁止指定種。

執筆：時岡昭人

サクラソウ サクラソウ科
Primula sieboldii E.Morren

鳥取県：絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)
環境省：準絶滅危惧 (NT)



日南町 2022.5.9 / 撮影：浜田幸夫

- 選定理由：日南町の1自生地が県の天然記念物に指定され保護体制は充実したが、他の自生地は個体数が減少傾向にあり状況は好転していない。
- 特徴：落葉樹林の畦畔沿いや湿潤な草原に生育する多年生草本。他の植物に先駆けて早春に成長する春植物。結実後に地上部は枯れるが、地下茎は活動を続け夏から秋にかけて花芽分化する。葉は根生し4-10 cmの葉柄がある。葉身には鈍鋸歯があり縮れた微毛が密生、葉脈に沿って皺がある。花茎は長さ15-35 cm、散形花序で先端に5-15個の高環型の花をつける。花期は4-5月、花冠は淡紅色、稀に白で5深裂し先端に浅い切れ込みがある。花粉媒介にはトラマルハナバチが関与。雌しべが長く雄しべが短い長花柱花とその逆の短花柱花のタイプがあり結実には異型花の受粉が必要。
- 分布 県内：江府町、日野町、日南町。県外：北海道、本州、九州。
- 保護上の留意点：採取防止、保全活動の継続、里山の維持管理。
- 特記事項：国立・国定公園採取禁止指定種、鳥取県条例採取禁止指定種。
- 文献：112。

執筆：浜田幸夫

コケモモ ツツジ科
Vaccinium vitis-idaea L.

鳥取県：絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)
環境省：—



氷ノ山 2015.10.5 / 撮影：永松 大

- 選定理由：大山と氷ノ山の山頂部にわずかに分布する常緑低木。種子生産はほとんどなく個体群も縮小。存続に強い懸念がある。
- 特徴：高山の乾いた草地や岩場に生育する常緑の矮性低木。茎は地面をはい、高さは20 cm程度。葉は互生し、革質で長楕円形、先は丸い。裏面には淡い黒点を散生する。花期は6-7月、釣鐘形で径1 cmほどの帯紅白色の花をつける。氷ノ山では個体群の披陰と衰退が顕著となり2015年に周囲の低木の刈り込みを実施した。その結果、小数の開花もみられたが依然として絶滅のおそれが非常に高い。大山では小数ながら結実もあり、氷ノ山よりはましな状況。
- 分布 県内：氷ノ山、大山。県外：北海道、本州、四国、九州の高山（西日本ではまれ）。
- 保護上の留意点：採取防止、自生地の管理とモニタリング。
- 特記事項：国立・国定公園採取禁止指定種、鳥取県条例採取禁止指定種。

執筆：永松 大

シシンラン イワタバコ科
Lysionotus pauciflorus Maxim.

鳥取県：絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)
環境省：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)



三朝町 2014.8.4 / 撮影：矢田貝繁明

- 選定理由：県内の分布はごく限定されており、種の存続に支障をきたすほど個体数が著しく少ない。生育地の環境はナラ類の枯損等により悪化がみられ、依然として採取圧もある。
- 特徴：山地渓谷沿いの老木に着生する小型の常緑性木本植物。茎は樹幹をはい、枝の高さは5-20 cmになる。8月上旬に枝の上部葉腋ごとに淡紅色の花を数個つける。花はラッパ状唇形をして横向きに咲く。葉は厚質で、鋸歯縁をもつ広披針形で2-4枚が輪生する。保護活動はあるものの鑑賞目的の採取圧も依然としてみられる。
- 分布 県内：三朝町。県外：本州（静岡県以西）、四国、九州。
- 保護上の留意点：生育環境の維持、厳重な採取防止。
- 特記事項：国立・国定公園採取禁止指定種、鳥取県条例採取禁止指定種。

執筆：矢田貝繁明

イワギリソウ イワタバコ科
Ophthandra primuloides (Miq.) B.L. Burt

鳥取県：絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)
環境省：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)



鳥取市佐治町 2021.6.8 / 撮影：時岡昭人

- 選定理由：生育適地が少なく県内での自生地はごく少ない。採取圧が高く、盗掘もみられる。
- 特徴：山地の陰湿な岩壁に着生する小型多年生草本。葉は根出し卵円形-卵状楕円形で肉厚。円頭で基部はやや心形。縁には鈍い鋸歯があり、全体に白い軟毛が密生して光沢がない。5-6月、花茎に紅紫色の散状花序をつける。花冠は2 cmほどの漏斗状唇形で先が5つに分かれる。県内の自生地では人目につきやすい部分のほとんどが採取され、人の手の届かない高さにあるものだけが残るのみ。
- 分布 県内：鳥取市（佐治町、青谷町）、湯梨浜町。県外：本州（近畿以西）、四国、九州。
- 保護上の留意点：厳重な採取防止、岩場の自然植生保護。
- 特記事項：鳥取県条例採取禁止指定種。

執筆：時岡昭人

ヒゴタイ キク科
Echinops setifer Iljin

鳥取県：絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)
環境省：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)



岩美町 2021.8.18 / 撮影：岡田祐哉

- 選定理由：県内では東部の海岸1カ所のみで生育。この10年間で個体数が減少し、絶滅の瀬戸際にある。
- 特徴：典型的にはやや乾いた山地草原に生育する夏緑性の多年生草本。草丈は1 mほどになり、茎にはくも毛を密生して白く見える。上部で少数が枝をわける。葉には長柄があり葉身は羽状深裂する。裏はくも毛で白色。花期は8月、頭花は集まって径5 cmほどの特徴的な球形となる。九州の草原に多かったとされるが、採取圧と草原利用の減少により現在はまれ。県内では海岸の風衝草原に散生しているが、個体数が減少するとともに残った個体も衰弱しており、2021年より積極的な保護活動の準備に入っている。
- 分布 県内：岩美町。県外：本州（中部以西、極めてまれ）、九州。
- 保護上の留意点：海岸風衝草原の維持管理。種の積極的な保護管理活動。
- 特記事項：国立・国定公園採取禁止指定種、鳥取県条例採取禁止指定種。
- 文献：61。

執筆：永松 大